

# 天声人語

アメリカの大統領だった人物を「地味な人」と言うのもおかしいが、第30代のクーリッジは無口にして無為の人として伝わる。現職の急死で副大統領から昇格した。1920年代の米は空前の繁栄を謳歌し、何もしなくて済は踊つた▼動かず、語らずで「サイレンント」とあだ名され、称赞か揶揄か「何もしないことを芸術の域まで高めた」などと評されたのを前にも紹介したことがある。その人の名がここに残っていたかと、オバマ大統領のキューバ訪問で知った▼クーリッジ以来88年ぶりの、現職米大統領の訪問となつた。88年前といえば日本は昭和3年。遠ざがわかる。傘をさして夫人や娘2人と専用機から降りたオバマ氏は、自らが言う「歴史的な一步」を、かつて激しく敵対した地にするした▼奇しくもオバマ氏は、両国が国交断絶した61年に生まれた。米ソが一触即発となつたキューバ危機は翌年に起きる。カリブ海に浮かぶ島は、社会主義陣営が米国に突きつけたナイフに例えられてきた長い敵意の歴史は、二つの「利益」をテコに動いたといえる。経済を立て直したいキュー・バと、後世に残す大きな遺産（レガシー）をつくりたいオバマ氏。双方に思惑があり、越すべき課題はなお多いが、世界はおおむねこの「握手」を歓迎する▼現地では、世界遺産の旧ハバナ市街を歩くオバマ一家に「USA」のかけ声も飛んだそうだ。新しい世代が新しい。風雨でかき消えないことを願う。

2016・3・22